

前戦争時の京都市近辺の爆撃被害状況とその後

第1回◎1月16日23時23分頃、**馬町爆撃**（東山空襲東山区馬町）**死者41人**重軽傷56人
家屋破壊 141戸被災家屋140戸以上

第2回 3月19日、春日町空襲（右京区）被害なし

第3回 4月16日、太秦空襲（右京区）被害なし

第4回 5月11日、京都御所空襲（上京区）被害なし

第5回 6月26日朝9時30分ころ西陣空襲（上京出水）**死者50人**負傷者300人以上：

被害家屋は全壊71戸、半壊84戸、一部損壊137戸合計292戸

（注）西陣 平成十七年八月石碑設立

第6回 7月19日乙訓郡新神足村（現長岡京市神足）**死者1名** 平成元年七月十九日記念塔、

長岡京市が、平和の日とした7月19日毎年慰霊祭献花 参列者80人程度で継続。



上の写真は、7月19日、市が制定した「平和の日」毎年に行われる慰霊式：左は、爆撃記念塔。

神足爆撃

終戦間近の昭和20年7月19日、新神足村（現・神足地区）が空襲を受け、1人の尊い命が失われました。

これが乙訓唯一の、空襲、神足空襲です。市では、平和の尊さを後世に伝えるため平成元年に7月19日を「平和の日」と決めました。

西陣空襲



西陣空襲犠牲者追悼碑：京都市上京区下長者町通智恵光院北東角「辰巳児童公園」

昭和20年6月26日午前9時半頃、B29の編隊（6～10機）が近畿地方に侵入し空襲警報が発令されました。

編隊は京都市上京区を北西から南東に進行中で、そのうち1機が上京区出水地域に50キロ爆弾、あるいは250キロ爆

弾7個を投下したそうです。この地域の被害が京都市ではもっとも大きく、北は上長者町通り、南は下立売通り、東は大宮通り、西は浄福寺通りの約400メートル四方もの範囲で死者は50名にもものぼりました。写真の石碑には、負傷者は66名と書かれていますが、実際に救護にあった医師は、「負傷者、者は300名以上であった」と言っていたそうです。被害家屋は全壊71戸、半壊84戸、一部損壊137戸で被害者は850名に達しました。この時の空襲の際、民家に落ちて来た爆弾の破片が「山中油店」さん（創業文政年間）の片隅のウインドに展示されている

